

書評

スタンダードケア・シリーズ

心不全看護スタンダード

●一般社団法人日本循環器看護学会 編 ●照林社 ●B5判、定価：3,300円(本体3,000円+税)



心不全パンデミックのこの時代、 多職種連携のキーパーソンとして、看護師の活躍に期待

心不全パンデミックの時代において、治療および再入院予防には多職種の関与が不可欠です。さらに近年は、多職種における患者指導や意思決定支援まで求められる役割が広がり、その実践はいっそう重要となっています。2026年度診療報酬改定で「心不全再入院予防継続管理料」が新設されたことも、この流れを象徴しています。そのなかで、患者さんに寄り添い、日常のケアから生活指導まで担う看護師の役割はきわめて重要です。

本書は、病態・治療の基礎から急性期・慢性期のケア、さらに地域連携や人生の最終段階に至る支援までを一貫して扱い、心不全看護の全体像を体系的に提示しています。また、**各分野のエキスパートの知見が凝縮され、心不全看護における重要な知識と支援のヒントがちりばめられています。**

医師は「治療」に視点が偏りがちですが、本書が示す看護の視点は、「生活」や「その人らしさ」を支える重要性に気づかせてくれます。特に第6章から第9章にかけての**終末期心不全におけるケアや地域連携、意思決定支援に関する記述は示唆に富み、深く考えさせられる内容**です。

看護師が心不全多職種連携のキーパーソンとして、ハブ(主要メンバー)として活躍する、そのような現場が広がっていくことを期待しています。心不全診療に携わる専門医の1人として、**本書の内容を理解し実践する看護師とともに心不全診療に携わっていきたい、そう思わせる1冊**です。

岡田健助 (公立昭和病院 循環器内科)